教育施設の充実、企業誘致に全力

南国市長

小笠原　喜郎

市民の皆様、新年おめでとうございます。この巡り来た一年が皆様に幸多い年でありますように祈年致します。

市勢は今、二十一世紀という新しい時代に向けて羽ばたこうとしています。

過去十年を振り返ってみますと空港、財政再建、同和対策など、どれを採り上げても難問題でありましたが、皆様のご理解とご協力、議会のご指導を得まして、残っている諸問題の解決並びに教育施設の充実、企業誘致などに努力を続けてゆきたいと考えております。

今、政府の地方財政対策は中央において各般にわたり論議されているところで、高率補助金のカットなど財政事情はなおいっそう厳しくなることが予想されます。

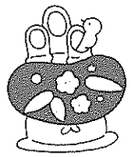
このような状況下にあって六十一年度の予算編成は、行政改革の推進により行政効率の向上と経費の節減を図らなければならないことは当然でありますが、これのみで解決するものでなく大幅な事業費の削減や事業の繰り延べなどの措置をすることもやむを得ないではないかと憂慮致しております。

なお、多年にわたり本市の財政を圧迫する大きな要因となっておりました比江山公有地の処分が財政再建に大きく影響しているものと考え、早期処分に努力を致してまいりました。

幸い、かねてより本市への立地を申し入れていただいておりましたミロク機械株式会社に一部売却するのが最も適当と考え、県当局も交えて折衝を重ねてまいりましたが、昨年末に売買契約を締結することができました。

どんなに夜が深くとも朝の来ない夜はないと言った人があります。皆様のご鞭撻をよりどころに心身を放下して、南国市の次代の光明を期待、努力させていただきたいと存しております。

いっそうのご理解とご支援をお願いし、あわせてご一統様のご多幸をお祈りして、ごあいさつといたします。



300人が元気に〝走り初め〟

一月四日、健康を願う体育初めの行事として恒例の〝走り初め〟が行われました。

午前九時半、市役所玄関前には、トレーニング姿の小・中学生、一般市民、市職員ら三百人が集合。市体育協会会長の浜田助役が「スポーツを通じ、健康づくり体力づくりを図ってほしい。今年一年も、さらに体を鍛え、仕事に勉強に頑張ろう」とあいさつ。準備体操をした後、小笠原市長、浜田助役、鈴江教育長らを先頭にスタート。まず日吉神社で、今年の飛躍と健康を祈願し、後免商店街を通り、電車通りを市役所まで元気に走り抜けました。

今年の健康を願い、300人が元気に走り初め

21世紀への歴史的転換の年に

南国市議会議長

岡崎　俊一

明けましておめでとうございます。皆様にとって、新しい年も旧年以上に幸せな年となりますようお祈り申し上げます。

激動の年代といわれます八十年代も六年目に入りました。南国市を取り巻く情勢も相変わらず厳しい環境下にあります。しかし、南国市は自然、立地など諸条件に恵まれており、未来に向けて明るい希望の持てる市であり、今年こそ新しい時代、二十一世紀への歴史的転換の年として皆様とともに英知を結集して最善の努力をしたいと念願しております。

さて、合併以来積年の課題となっている財政問題は、ますます深刻になっており予断は許されません。国の六十一年度予算編成は行政改革の色が強く、地方自治体はもとより私たち国民生活にも直接、間接に深刻な影響を及ぼしており、市の財政運営は更に厳しいものとなることが予測されます。

このためには累積赤字の早期解消を図ることが最も大切なことですが、その最大の要因は比江山北部運動公園の残地処分であります。幸い地元の皆様のご理解を得て昨年、ミロク機械株式会社の誘致が決まりましたことは、赤字解消のためにも、また南国市産業振興の面からも喜ばしいことです。

ところで、今の南国市の体質には、多くの非効率や不合理がありそれが財政悪化の要因ともなっていますので、これを正すためにも執行部は思い切った行政改革を行わなければなりませんが、そのためには市民の皆様の知恵と工夫、理解と協力が不可決であります。

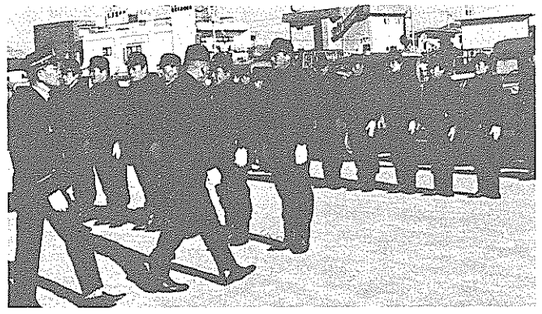
五十八年末、県民待望の高知空港のジェット化が暫定的ではありますが実現し、産業、文化の振興に大きな成果を上げており、近く全面開港となるもようで、今後はジェット化によるメリットを実質的に南国市にどのように波及させるかが重要課題となりましょう。

四国横断自動車道につきましては建設が着々と進み、南国インターチェンジもその姿を現すなど、交通新時代の到来も間近となっております。

また、このほかにも、し尿処理場、同和問題、文教施設の充実、都市基盤整備など重要課題は数多くあり、市当局も市民生活、住民福祉向上という自治体の本旨に沿った市政実現のため最大の努力を続けておりますが、議会といたしましても課せられた責務を自覚し、更に努力する所存であります。

最後に、ご一同様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。

防火の決意新たに 330人で出初め式



小笠原市長らが各分団の人員、服装点検をした

新春恒例の消防出初め式が一月六日、市立斗中央公園（土曜市会場）で規律正しく整然と行われました。

午後二時、日ごろ各地区で防火、防災活動に取り組んでいる十二の消防分団、市消防署員ら約三百三十人が制服に身を固め勢ぞろい。

まず、斉藤正展団長が「六十年は平素の火災予防の普及で発生が少なかった。本年もよりいっそうの活躍を期待します」とあいさつ。続いて小笠原市長らが整列した各分団ごとに人員、服装などの点検を行いました。その後、後免分団が模範操法を披露。各団員も真剣に見守りながら、防火への気持ちを新たにしていました。

これからまだ寒さが続き、暖房器具の使用が多くなります。くれぐれも火の用心を。